

自由 10

房総半島におけるニホンザルと外来種の混血に関する研究

萩原 光 (房総のサル管理調査会)・川本 芳 (京都大・霊長研・集団遺伝)

1995 年千葉県房総丘陵部の主要個体群生息地から南へ約 20km 離れた地域 (館山市) で、長尾個体 (外来種形態特徴) を含む一群を確認した (千葉県自然保護課、房総のサル管理調査会、1996)。主要個体群が地域的に離れたこの個体群と混血を起こす可能性が疑われた。主要個体群とこの群れの相違点を上げる。外部形態特徴としては、尾が長く、腰部分が赤毛であり、若い個体の顔が多少白く見える。その他の特徴としては、房総のニホンザルにない鳴き声である点 (イーヨー、ハーファーなどと聞こえる)、樹上を多く移動する傾向が認められる。また、96 頭以上と房総ではサイズが大きな群れにも関わらず、地元からの被害報告が少ないのも特徴的な性質といえる。これまでの調査で、主要個体群生息地域から、血液サンプル 22 個、皮膚標本 11 個を採集している。また、相澤敬吾氏に協力いただき、外来種の形態をもつ白浜町の群れから、糞試料を 29 個採取している。その 29 個の糞に付着する細胞からミトコンドリア DNA の塩基配列を決定して、外来種の判別をおこなうべく、実験を進めた。最初に分析した 9 サンプルのミトコンドリア D ループ領域の結果では、分析した試料のすべてが同じタイプで、既に知られている房総の 2 つのタイプと異なっていた。比較可能なデータと照合した結果、発見したタイプはアカゲザルに近いと判定された。今後は、観察と分析を継続して交雑状況の把握を進める予定でいる。

自由 11

屋久島におけるヤクシマザルの遺伝的交流と生態学的変異の対応関係

早石周平 (京都大・理・動物)

鹿児島県の屋久島でヤクシマザルのミトコンドリア DNA (mtDNA) の変異型の島内分布を調べた。

遺伝試料は二日以上経っていない糞から調製した。mtDNA の D-loop 領域 203 塩基の配列を比較し変異型を検査した。

36 個体の試料から 4 つの変異型が検出された。4 変異型は互いに 1 あるいは 2 カ所の塩基置換によって区別された。それぞれの変異型の試料数は 32、2、1、1 である。試料数のもっとも多かった変異型が島内に広く見つかっており、他の 3 変異型は島内西部の海岸林帯に見つかった。

今後さらに島内を広く、とくに高標高部で糞を採取して、変異型の島内分布を明らかにし、母性遺伝する mtDNA を母系集団の標識として、オスの移住が植生帯を越えるかどうかを調べていく予定である。

自由 13

ニホンザル雄における攻撃性と繁殖の内分泌学的相互関係

Gordon Barrett (Kyoto University, Primate Research Institute, Department of Ecology and Social Behavior, Inuyama, Aichi, Japan)

In a previous study, I collected fecal samples and behavioral data from six wild male Japanese macaques of the Arashiyama E group, three of high rank and three of low. I spent the following year analyzing these samples in the lab to quantify testosterone and

cortisol levels and compare them to social status and rates of reproductive and aggressive behavior. As a follow-up to the finding that testosterone was correlated with some types of aggression but not with others, further field research was initiated to examine the hormone behavior relationship outside of the mating season. The previous study also revealed that high ranking males excrete significantly higher levels of cortisol than low ranking males. The deaths of two subject males, one of low rank and one of high, and the subsequent shift in rank of the surviving males provided an opportunity to further evaluate the relationship between social status and adrenal activity. Data was also collected to examine the influence of male reproductive strategy on glucocorticoid secretion.

自由 15

売立目録猿猴図版の類型決定と作家別・主題別目録索引の作成

都守淳夫（犬山市・愛知）

平成 12 年度の主な研究経過を下に列挙する。

【売立目録猿猴図の類型・主題別分類索引の作成】：継続研究として猿猴図版を【主題→時代→作家】情報により階層分類した文字情報を「売立目録猿猴図リスト・データベース」（桐 8 による）に追加した。

【図版カード複製から画像データベースの作成へ】：猿猴図版のゼロックス簡易複製は最小限にとどめ、余力を全図版カード（7200 枚）のデジタルファイリング化のための画像取り込みに当て、これを終了した（Billete5.0 による）。次年度作業は、ここで作成した画像サムネイル・データベースへの「桐データベース」の検索文字情報の読み込みである。これにより売立目録猿猴図版の共有化が実現する。なお、「猿猴図の摸本および真蹟情報」の収集とデジタルファイリング化もこれに平行する。

【シルクロードの猿猴図の検索】：筆者は正倉院の、五頭の猿の出自を「シルクロード」に求めたことがある（霊長類学会第 13 回大会発表）。このたび、中国研究者の労作『中国石窟』シリーズ全 18 巻（日本語版は平凡社刊、収録カラー図版は約 2600 枚）に収められた壁画に、その原形を期待して全冊検索した。結果は、新疆ウイグル自治区拝城県ギシル石窟群の 14 窟に 33 件 46 頭、同自治区庫車県のクムトラ石窟群の 3 窟に 4 件 9 頭、敦煌莫高窟群の 4 窟に 4 件 9 頭、甘肅省永靖県炳靈寺石窟群の 1 窟に 1 件 3 頭で、四地域の合計は 22 窟 42 件 67 頭の猿図像の発見となった。図像は多様さあまりないが、主題は概して本生話が多く、これに背景点描が加わる。時代は 4 世紀から 11 世紀にわたる。西アジア、西域、中国の仏教遺蹟の系統的検索による研究が望まれる。

自由 16

ニホンザルにおける顔認識発達過程の実験的検討

山口真美（中央大・文・心理）・金沢 創（三菱化学生命研）

チンパンジーは自然哺育の新生児 3 頭、ニホンザルでは、人工哺育の新生児 2 頭と自然哺育の新生児 2 頭を対象に、既知顔発達の縦断実験を行った。

(1) 既知顔（母親顔）への好みがいづ頃成立するか、(2) 母親顔と平均顔のどちらを好むか、を調べる実験を行った。それぞれの個体の養育者の顔から、養育者（母親）顔・個体の属する集